

第1回研修会の報告

2005.6.21(火)

出雲市立田儀小学校

今回の研修は、田儀小学校の理科の訪問指導に、出雲市西部ブロックの先生方と一緒に参加させていただきました。なお、指導助言者として出雲教育事務所の成相先生と糸賀先生、出雲教育事務者の松岡先生にお来しいたきました。

(1) 全校理科集会「アイボと遊ぼう」(SONYのロボットAIBOとの交流活動)

このアイボとのふれあい活動は、S S T A会員である田儀小の三原先生を中心に企画されました。

アイボ説明用DVDとクイズ アイボとのふれあい 集会の感想発表という流れで進みました。最初のアイボ登場から、子どもたちは興味津々の様子でした。この集会では、各学年の代表者だけがふれあいましたが、他の見ている子も身を乗り出して、アイボの動きを追っていました。

後日、各クラスをゆっくりとまわる時間も設定しており、とても子どもの興味をそそるものであったようです。また、自立型の設定で動かしたことで、子どもたちもアイボのすばらしさを実感できたようでした。この自立型での提示の有効性は、他校の実践からも同様の報告がありました。

田儀小では、こうした理科集会を今回を皮切りに、
<7月>樹木オリエンテーリング、<11月>理科マジックショー(曾我部先生)・万華鏡作り、<3学期>科学おもちゃで遊ぶ活動など、年間を通して計画されています。今から、田儀小の子どもたちのわくわく、きらきらしたまなざしが浮かぶようです。今後、他校でもこうした科学への興味を意欲を伸ばす活動が、どんどん計画・実践され、また、その様子を互いに情報交換していければと思います。



(2) 研究授業 第3学年「電気のはたらき」 指導者;上田 美樹先生

田儀小では、来年度複式学級になることを想定し、今年度から複式の年間指導計画の下で理科学習を進めていました。そのため、本来4年生の1学期単元で扱われる内容を、3年単元の「明かりをつけよう」から発展させた大単元に取り込んで、一連の電気の単元にするという試みにチャレンジしておられました。子どもたちの科学的な思考の発達段階を考えると、いろいろな問題を抱えることが予想されますが、指導案に書かれていた綿密な指導計画・評価計画を見ると、子どもたちそれぞれの能力の違いに対する配慮がなされているなあと感心しました。

実際の授業場面では、4年生の場合と同様に「モーターカーを作ろう」というわずか2時間の導入から、本時を迎えているのにもかかわらず、3年生の1学期であることを忘れさせてしまうほど、田儀小の3年生は生き生きと活動を展開していました。また、研究目標の「児童一人一人が理科学習への興味・関心をもち、主体的に問題解決する学習活動の在り方を追究する。」という面からも、問題解決能力を3年生なりに意識させるためのきめ細かい手立てが、発言のさせ方やワークシートなどからもうかがえました。

来年度は、出雲市西部ブロック(河南部)で、県理科研究大会を開催しますが、そのスタートとしてとても有意義な研修会となりました。田儀小学校の先生方に感謝します。ありがとうございました。